

「新しい市役所をいかしたまちづくりについて市長と語る会」概要報告
キーワードによる意見交換のまとめ

□主なキーワード

○質問・意見・提案

⇒回答

□駐車場整備

○駐車場が点在していると、細い道路も多い中で、障がい者、高齢者、子ども連れの人
はどのようにスムーズで安全に行けるようにするのか。

⇒道路については、都市計画と一緒に、エリア全体でどのように整備できるのか
を考えていきたい。

○駐車場のスペースを確保することは可能なのか。

⇒現在の状況から計算すると来庁者用として104台あれば足りると想定している。こ
れに対して114台確保できる予定であり、他市と比較しても、少ないわけではない。

○駐車場が分散して計画されているが、一つの大きな駐車場を作った方が良いのではな
いか。

⇒大きな駐車場を計画していないのは、敷地の課題やコスト、将来性等を考慮したうえ
である。駐車場を効率的に使用できるよう、IT技術の活用も視野に入れて検討して
いく。

○駅前はお金を払ってでも車を停めたい人が多いなか、現在計画している駐車場では足
りないのではないかと。

⇒現庁舎の駐車状況等を考慮し、今回の駐車台数を計画している。障がい者や子連れの
方等を優先して庁舎近くに駐車できるよう配慮する。

○今回の案における駐車場はすべて市有地でおさめる考えなのか。

⇒新たに用地を取得することは考えていない。

○駐車場が3か所だと説明したが、それぞれが満車であった場合などの対応を想定する
と、不自由ではないか。

⇒市役所整備にあたり、大きな投資はしないことを前提としており、過去の人口増加時代
は郊外に広い駐車場を用意して建設すればよかったが、今は、ある資源をいかに活用す
るかが大事である。

○駅前にはハザードマップでも災害時の浸水が心配されるが、道幅が狭いため車両が通りにくく駐車も困難になり、非常時に十分に対応できないのではないかと。

⇒駐車場は安全面を考慮した計画を行っていききたい。ハザードマップは非常時に早急に避難してもらうために作成されていることを理解頂きたい。道路幅が狭い点については、今後都市計画道路の見直しを含めて検討する。現時点で庁舎の1階に30台、最も近い駐車場に40台の駐車を検討しているため、高齢者の方などにも利用しやすいように考えている。

□防災（災害対策）

○なぜ、あらかじめ災害が想定されているところに防災拠点をつくるのか。

⇒強固な基盤があり、想定される災害の対応やネットワークが集まる場所として、駅周辺の環境が1番良いと考えている。

○防災に対する対策はどのように考えているのか。

⇒岐阜県が発表した地震予測では、美濃加茂市は震度6強の地震が発生する可能性がある。浸水については、国土交通省の資料（木曾川浸水想定）において、美濃加茂市も浸水する地域とされている。これは、そこにもものを作るな、住むなということではなく、浸水する恐れがあることを知っていただき、不安な時はすぐに逃げてもらおうための注意喚起である。また、多くの水位計やカメラが設置されたことによって雨量、水位を予測して事前に移動することも多くあり、早めの避難を指導していききたい。

○浸水の恐れがある場所に防災拠点でもある庁舎を建てて大丈夫なのか。

⇒これからは早めに避難勧告を行い、建物が浸水する前に公共施設に避難が完了できるように対応していききたい。新庁舎においては、耐震、浸水に対して最善の構造となるよう十分に検討していききたい。

○9.28 災害を受けている駅南に建てることは、災害時の拠点となることが欠如しているのではないかと。

⇒9.28のことはしっかり想定し、災害意識を高めるためのものとして、自分たちができる対策をやっていききたい。また、防災機能を分けて整備することも考えられる。

○まちづくりは大切だが、災害に強い庁舎を整備することも大切ではないかと。

⇒災害対策は絶対に欠かせないと考えている。災害の際の対応策等も具体的に検討していく必要があり、今後しっかりと説明をしていく。

□前平候補地

○交流の場・憩いの場にはある程度ゆとりのある場所が必要であり、前平を造成や道路整備して建てるのが良いのではないか

⇒前平地区は、スポーツ・健康の拠点として活用したいと考えている。

○前平にある養豚場を活用して建ててはどうか

⇒前平地区は、スポーツの拠点、健康の拠点として整備していきたい。また、どのように造成できるかシミュレーションをしたところ、整形な面積の確保やアクセスの問題があり、また費用もかかる。庁舎の整備は造成などが必要ないようにしたい。

○災害の時にいろいろな対策をとりやすい前平が良いのではないか。

⇒前平は、スポーツ・健康の拠点として整備していきたい。整備しても広い面積は確保できないと考えている。

○安心安全である前平公園に建てるべきではないか。

⇒前平は浸水することはないが、立地上 15mの擁壁を作る必要があり、新庁舎が誰もが気軽に来ていただく場所としては難しいと考えている。総合的に最適な場所を選択して説明していきたい。

□にぎわいの創出

○にぎわいができるためには、庁舎を建てるだけでなく、商店街や中山道の人たちの努力が必要ではないか。

⇒美濃太田駅の西側・南側も含めた大きなエリアで企業、お店といった民間と連携してにぎわいをつくっていきたい。

○駅前で公共施設のにぎわいが必要なのは都市部のことである。駅前がさびれたのは社会的要因であり、美濃加茂でこの状況を復活するのは無理。

⇒今後は、交通ネットワークをより活用することになると考えている。一方で、駅周辺に物を買いに来ただけがにぎわいではなく、歩いて健康なまちづくりを目指したい。

○にぎわい機能とあるが、イベント等をする時は駐車台数が足りないのではないか。

⇒今回の計画では日常利用を想定した駐車台数を算出している。イベント時は周辺の民間の駐車場との連携も視野に入れ、考えていく必要がある。

○にぎわい機能を検討しているが、ただ飲食店や物販店を整備することがにぎわいというのは安易ではないか。

⇒にぎわいは何か目的を持って拠り所として集まる場所だと考える。市内の魅力的なスペースを集積して提供することで、市民にこれからも住み続けてもらえるまちづくりを行っていきたい。

□美濃加茂市商業ビル（シティホテル美濃加茂）

○シティホテルにあるコンベンションホールの施設を入れてほしい。

⇒コンベンション機能は残し、宴会や総会以外でも使える多目的なスペースとして整備したいと考えている。

○シティホテルは新しく作り直すのか、それともそのまま利用するのか。

⇒解体・再整備をしていきたいと考えている。

○シティホテル内のテナント補償はどう考えているのか。

⇒今後、計画案が決定すればシティホテルと協議に入るが、関係者には真摯に対応していきたい。公共的な補償基準に基づき営業・廃止補償も含め、誠意を持って考えていきたい。

○シティホテルを解体することが決まっているのか。

⇒決まっていない。

○シティホテルの解体と庁舎の移転を同時に行うのはなぜか。

⇒シティホテルを維持管理するために莫大な費用がかかることから再整備が必要となる中、新庁舎整備にあわせて解決したいと考えている。

○シティホテルを縮小して庁舎にする方法もある。費用も少なく済むのではないか。

⇒シティホテルは客室43室であり、この客室規模はホテル経営上負担となっている。

また、長寿命化のために今後30年間で20～30億円かかると見込まれ、維持するためのこの費用は賄えない。コンベンション機能は新庁舎の中に確保すべきであるが、ホテルの継続は難しい。

□現庁舎の跡地活用

○現庁舎の跡地利用はどう考えているのか。

⇒移転計画が決まれば、今後検討していく。生涯学習センターは、今後も活用していきたい。西側エリアについては、地域活性化につながる公共性の高い整備を考えていく。例えば子育て世代と高齢者とが交流できるように整備していきたい。

○駅前に移転した場合、現庁舎の跡地利用も合わせて検討してほしい。

⇒子育て支援や福祉に力を入れて整備していきたいと考えている。

□その他

○現在駅前の前提で計画されているが、候補地の選定で住民投票をしなかった理由はないか。

⇒これまで説明してきたことは決定事項ではないため、住民投票は行っていない。計画を策定する中で、一つの案を提示し、意見をもらうために今回の語る会を開催している。

○今後も意見交換会は開催されるのか。

⇒定期的に意見をしていきたい。

○構想作成時にワークショップに参加したが、一番候補の位置づけの低い駅前に決まった。最初から駅前ありきではなかったのか。委員会の顔ぶれも地元メンバー中心で行うべきではなかったか。ワークショップ時には、庁舎建設には10年くらいかかると聞いていた。子や孫の世代のためにも、市民一人一人と向き合って進めるべきである。

⇒有識者は、市民とは違う側面の専門的な観点から意見を聞くことができ、有効であると思っている。今後も市民とは意見交換をしていきたい。